

巻頭言

第55回ICID執行理事会に参加して

農林水産省事業計画課長 角田 豊

第55回ICID執行理事会は、2004年9月5日から11日にかけて7日間の日程で、ロシア・モスクワで開催されました。ロシア南部・北オセチア共和国で発生した中学校人質射殺事件の直後であったためか、参加国は38カ国、出席者約350名と例年より規模は小さめとなりました。

我が国からは、谷山ICID協会会長を始めとして、ICID日本国内委員会及びICID協会から延べ20名が参加しました。私は、国内委員会事務局の立場で、日程終盤の技術活動委員会と執行理事会に出席しましたので、この機会にその一端をご紹介します。

ICID活動は、執行理事会の下に、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの4つの地域部会が設けられ、地域毎の戦略計画が議論されるとともに、テーマ別に28のワーキンググループとタスクフォースが設置され、各国のかんがい技術者や学識経験者等による専門技術的な議論が行われています。

日程の前半から中盤にかけてこうした地域部会やワーキンググループの会合が連日開かれ、それらの議論のとりまとめ・総括とICID組織全体の運営に関わることが最終日の執行理事会で議論決定されるという運びとなっています。

執行理事会の冒頭、ケイズールICID会長（マレーシア農業省灌漑排水局長）よりICID活動全体についての基調報告がなされました。ケイズール氏がまず述べたのは、ICID活動の範囲の拡大についてでした。「灌漑排水は、世界規模の人口増加に対応した食料生産増大の基礎条件であり、灌漑排水プロジェクトの重要性は論を待たない。しかしながら、世界的な水需給の逼迫や地球環境問題への対応など、灌漑排水事業に関係する社会経済的側面の重要性が増大してきている。ICIDとしては、灌漑排水技術から環境や社会経済的分野への活動範囲の拡大がいっそう重要になってきている。」という趣旨でした。

この点について欧米とアジアでは問題のとらえ方と対応に異なる面があります。欧米では、新規水源開発コストの上昇、地下水の過剰取水による地下水資源の減少や乾燥地域における塩類集積による農地の荒廃などの問題に対応するため、持続的農業の実現と水の効率的利用の観点から、灌漑用水のコスト化と節水型灌漑の徹底が指向されています。一方、アジアでは、モンスーン特有の変動の激しい降雨を水田で一時貯留した後、徐々に下流に排出し地下水を涵養しながら、上流から下流に至るま

で水を循環利用するという、巧みな水の制御・利用技術が発展しています。つまり灌漑排水システムに持続的農業、環境保全の仕組みがビルトインされているといえるわけで、農村の過疎・高齢化等社会経済情勢の変化の中でこうした水利用のシステムをどのように保全・整備・発展させていくかが課題となっています。

いずれにしても水利用の実態や課題は、地域によって多様であり、こうした地域の多様性をふまえた議論が必要だということです。このような観点から、我が国は、今回のICID執行理事会で2つの提案を行いました。一つは、灌漑の多様性と役割に関するワーキングチームを設置し、2005年の北京総会でワークショップを開催することです。もう一つは、「国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）」の設立です。すでに、2004年11月に東京で第1回総会が開催され、着実な取り組みが進んでいます。

さらに、我が国として、灌漑排水の社会経済面の取り組みを強化していくため、これまで委員を出していなかった、ワーキンググループ「社会・経済・政策部会（WG-SOCIO）」に佐藤洋平教授の参加を表明し承認されました。

ケイズール会長の基調報告における2番目の指摘は、ICID組織そのものの活性化の必要性についてでした。「ICIDは参加国こそ104カ国を数えるが、活動の活発な国内委員会は63にとどまっており、各国国内委員会の体制強化と活動の活発化が必要。また、アフリカ及びアメリカにおける地域活動の強化、さらにはLDC諸国の加盟促進と活動の活発化が重要。」との指摘がありました。

4つの地域部会の中で、アジア地域部会（谷山部会長）は、かんがいの多様性に関するワーキングチームの設置とワークショップの提案を行うなど、その活動ぶりは執行理事会で評価されており、さらにLDC諸国に対しても、ラオス、カンボディアに対する新規加盟要請を行うなど積極的な取り組みをしているところです。

我が国としては、INWEPFなどの取り組みを通じ、アジアモンスーン地域の水田農業の存在感をいっそう高めていくためにも、こうしたアジア地域諸国への働きかけを強めていく必要があると思います。

最後に、今回の執行理事会で副会長選挙が行われ、副会長3名が改選されました。谷山氏は、多くの実績をあげられ、惜しまれつつ副会長の任期を終えられました。そして、アジア地域からの新たな副会長として、韓国のフーヨーマン氏が最多得票で選出されました。フーヨーマン氏は、我が国に知己が多く、INWEPF第1回運営会議の議長を務めるなど、今後、灌漑排水セクターでのアジア地域連携の一層の進展が期待されます。